

荒木特許事務所

ゴマメ通信

(2 0 1 7 0 2 号)

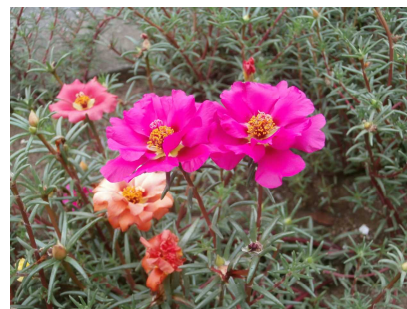
発行人：発明を育てる会（千葉発明研究会）肝入役

荒木特許事務所 弁理士 荒木 昭 生

住 所：(千葉本室)

〒 261-0004 千葉市美浜区高洲2-7-5-103

Tel/fax043-245-8721 Email:a-araki099@nifty.com



写真は散歩道の「松葉牡丹」である。夏の暑さや乾燥に強く栽培が容易。葉が松の葉に、花が牡丹に似ているのでこの名がついた。(平成29. 7・8 撮影)

この通信は、知的財産関連情報や時に感じる話題に関して、筆者のゴマメが自己の知人や友人に気の向くままに発信する一種のエッセーである。ゴマメの生存の証に「ゴマメの戯言」としてご笑覧くだされば幸いです

戦争と技術開発

昭和20(1945)年8月15日、ゴマメが「玉音放送」を聞いたのは、近くの隣保班長の家の庭に集まって聞いたラジオ放送であった。村に数台しか無かった真空管ラジオで、選局時にピーピーと音がして雑音が多く言葉としてはよく聞き取れず、大人達も後で敗戦を知ったようであった。終戦後、給食が始まってやっと飢餓の時代から脱出した。

中学生の頃から、ゴマメは自分でラジオを作るようになった。最初は鉱石検波器ラジオで、振動子にロッシェル塩を使ったイヤホンを耳に差し込み微弱な電波を聞くため、布団を被って放送を聞いたものである。やがて、ゴマメのラジオは、480ボルトの昇圧用変圧器と整流管(12F)と検波管(6C6)と低周波増幅管(6ZP1)を備えた「並3」と呼ばれるST管の管球式ラジオとなり、ついに周波数変換器と中間周波増幅器を有する5球スーパーヘテロダインまで成長した。

ゴマメは機械工学を専攻したが、最初の就職先はラジオの電子部品製造会社であった。その時は既にST管はMT管となり、トランスレスで小型の携帯用ラジオの最盛期であった。技術課にいたので射出成形機や放電加工機等の最新式の機械を使って部品の設計試作を行った。検査用の10倍図は水晶のスケールと熱膨張による寸法誤差を防ぐため木綿の手袋を付けて烏口(カラスグチ)で作図した。

小型の携帯ラジオはダイオードやトランジスターの出現でプリント配線から複数の回路を組み込んだIC回路を使用するようになり、白黒のブラウン管テレビは液晶のカラーテレビとなった。戦後100年も経たない間に宇宙飛行や人工衛星、携帯電話や人工知能脳(AI)ロボッが出現し、電気自動車(EV)の開発や非接触電気エネルギーの伝達も可能になった。

およそ、200万年前に石器を使用する人類(猿人)ホモ・パピリスが地上に出現し、今の人類に近い文化能力を有すると思える彩色壁画や彫刻を残した新人類クロマニヨン人が現れたのは20万年ほど前とされている。その後の経過は知らないが、ゴマメの認識している現代の人間は、エジソンが二極真空管を発明(1883年)して134年、ライト兄弟が初飛行(1903年)をして114年、僅か130年余で人間は飛躍的な情報伝達と3次元の移動手段を手に入れたのである。

人間の寿命は最大120歳と言われている。本日(8月15日)生まれた人間の孫達は、自然環境の不測の変化か、人間自身の開発した生物的、化学的研究成果の誤使用、或いは人間同士の戦争による壊滅的な破壊手段が使用されない限り、永遠の生命を保ち続ける選択の自由も手に入れることが出来るであろう。

永遠の生命とは、DNA操作とIPS細胞により修復された臓器や肉体が人工知能によって操作される装甲ロボットに搭載された生命体か、それとも、永遠の生命を取得したいと望む特定の間人だけが、巨大記憶装置からの信号により、見たい物が見え、音や味や臭いや触感の五感に加えて感情まで有する細胞であって、宇宙空間のエネルギー源により作動する頭脳だけの物体、つまり”首だけ人間”として地球上に存在し続ける生命体かもしれない。そして彼らは人工知能によって制御されるバーチャルリアリティの世界でのみ永遠の生命の存在感を認識し続けるとになるのではなかろうか。

人間は戦争を契機に科学技術の飛躍的な発達をもたらしたものの、地球上に生存する動物としての基本的な本能である狩猟や採集のルールを放棄し、種の保存や生命の維持に必要とする以上に欲望と言う感情の追求を行った結果、地球環境を破壊し或いは人間を含む生命体と維持環境を破壊又は変更する危険性を有する技術をも開発してきたのである。AIロボットは言う「私は人類を滅亡させます」と。

落雷事故も多発して、花火見物もままならぬ。水の中から・・・クワバラ・クワバラ(桑原)・・・以上